

4/5/1

DIALOG(R)File 352:Derwent WPI

(c) 2004 Thomson Derwent. All rts. reserv.

009671693

WPI Acc No: 1993-365245/199346

XRAM Acc No: C93-161937

New polypeptide contg. heparin-binding domain - has intercellular adhesion activity and cancer metastasis inhibiting activity

Patent Assignee: TAKARA SHUZO CO LTD (TAKI)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 002

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 5271291	A	19931019	JP 91238935	A	19910827	199346 B
JP 2729712	B2	19980318	JP 91238935	A	19910827	199816

Priority Applications (No Type Date): JP 91117886 A 19910423

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan	Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 5271291	A		13	C07K-013/00	
JP 2729712	B2		20	C07K-014/78	Previous Publ. patent JP 5271291

Abstract (Basic): JP 5271291 A

A functional polypeptide of the formula A-(B)_m-(C)_n (I): A = 278 amino acid polypeptide Seg. No. 1); B = polypeptide

Asn-Val-Ser-Pro-Pro-Arg-Ala- Arg-Val-Thr-Asp-Ala-Thr-Glu-Thr-Thr-Ile-Thr-Ile-Ser-Trp -Arg- Thr-Lys-Thr-Glu-Thr-Ile-Thr-Gly-Phe-Gln-Val-Asp-Ala-Val-Pro Ala-Ans-Gly-Gln-Thr-Ile-Gln-Arg-Thr-Ile-Lys-Pro-Asp-Val -Arg-Ser-Tyr-Thr-Ile-Thr-Gly-Leu-Gln-Pro-Gly-Thr-Asp-Tyr-Lys- Ile-Tyr-Leu-Tyr-Thr-Leu-Asn-Asp-Asn-Ala-Arg-Ser-Ser-Pro-Val- Val-Ile-Asp-Ala-Ser-Thr.

C = polypeptide Ala-Ile-Asp -Ala-Pro-Ser-Asn-Leu-Arg-Phe-Leu-Ala-Thr-Thr-Pro -Asn-Ser-Leu-Leu-Val-Ser-Trp-Gln-Pro-Pro-Arg-Ala-Arg-Ile-Thr -Gly-Tyr-Ile-Ile-Lys-Tyr-Glu-Lys-Pro-Gly-Ser-Pro-Pro-Arg-Glu -Val-Val-Pro-Arg-Pro-Arg-Pro-Gly-Val-Thr-Glu-Ala-Thr-Ile-Thr -Gly-Leu-Glu-Pro-Gly-Thr-Glu-Tyr-Thr-Ile-Tyr-Val-Ile-Ala-Leu -Lys-Asn-Asn-Gln-Lys-Ser-Glu-Pro-Leu-Ile-Gly-Arg-Lys-Lys-Thr.

m + n = 1 or 2 and a cancer metastasis inhibitor contg. the above functional polypeptide.

USE/ADVANTAGE - The new low molecular polypeptide has both intercellular adhesion activity and cancer metastasis inhibiting activity. In an example, Heparin-combining domain from E coli HB101/pHD101 was introduced to E coli BW313. A double-stranded DNA was derived and digested by NcoI-BamHI to give 0.54 kb band. It was ligated with NcoI-BamHI fragment of plasmid pTF7520 and introduced to E coli HB101. A plasmid was extracted from it and named pCHU179. III-12 and III-14 of H-271 was deleted from it to give pCHV89. pCHV90 was also prepd. Their intercellular adhesion activities, heparin-combining activities and reactivities with monoclonal antibody against heparin-combined domain were determined. Their doses inhibited lung metastasis of melanoma in mouse.

Dwg.0/0

Title Terms: NEW; POLYPEPTIDE; CONTAIN; HEPARIN; BIND; DOMAIN; ADHESIVE; ACTIVE; CANCER; METASTASIS; INHIBIT; ACTIVE

Derwent Class: B04; D16

International Patent Class (Main): C07K-013/00; C07K-014/78

International Patent Class (Additional): A61K-037/02; A61K-038/00;

C12N-001/21; C12N-015/09; C12N-015/62; C12N-015/70; C12P-021/02;

C12R-001-19

File Segment: CPI

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11) 特許番号

第2729712号

(45) 発行日 平成10年(1998) 3月18日

(24) 登録日 平成 9 年(1997)12月19日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	片内整理番号	F I	技術表示箇所
C 0 7 K 14/78	Z N A		C 0 7 K 14/78	Z N A
A 6 1 K 38/00	A D T		C 1 2 N 1/21	
	A D U		C 1 2 P 21/02	C
C 1 2 N 1/21			A 6 1 K 37/02	A D U
15/09				A D T

請求項の数 6 (全 20 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願平3-238935	(73) 特許権者	591038141 資酒造株式会社 京都府京都市伏見区竹中町609番地
(22) 出願日	平成 3 年(1991) 8月27日	(72) 発明者	東 市郎 北海道札幌市南区真駒内上町 5 丁目 3 番 2 号
(65) 公開番号	特開平5-271291	(72) 発明者	清木 育夫 北海道札幌市厚別区厚別北 3 条 5 丁目12 - 6
(43) 公開日	平成 5 年(1993)10月19日	(72) 発明者	田口 白紀 滋賀県大津市瀬田 3 丁目 4 番 1 号 資酒 造株式会社中央研究所内
(31) 優先権主張番号	特願平3-117396	(74) 代理人	弁理士 中本 宏 (外 2 名)
(32) 優先日	平 3 (1991) 4 月 23 日		
(33) 優先権主張国	日本 (J P)		
微生物の受託番号	FERM P-12182	審査官	斎藤 真由美
微生物の受託番号	FERM P-12183		
微生物の受託番号	FERM BP-1941		
微生物の受託番号	FERM BP-2264		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 機能性ポリペプチド

1

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 下記一般式(化1)：

【化1】 A-(B)_m-(C)_n。

(式中Aは配列表の配列番号1で表されるポリペプチド、Bは配列表の配列番号2で表されるポリペプチド、Cは配列表の配列番号3で表されるポリペプチド、m、nはそれぞれ1又は0の数を示す。但しm、nの和は1以上である)で表されることを特徴とする機能性ポリペプチド。

【請求項 2】 請求項 1 記載の機能性ポリペプチドを含むことを特徴とするガン転移抑制剤。

【請求項 3】 請求項 1 記載の機能性ポリペプチドをコードする核酸。

【請求項 4】 請求項 1 記載の機能性ポリペプチドをコードするDNAを組み込んだプラスミド。

2

【請求項 5】 請求項 4 記載のプラスミドを導入した形質転換体。

【請求項 6】 請求項 5 記載の形質転換体を培養し、該培養物より請求項 1 記載の機能性ポリペプチドを採取することを特徴とする機能性ポリペプチドの製造方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、新規ポリペプチドに関し、更に詳しくは細胞接着活性とガン転移抑制活性の両活性を有する新規なポリペプチド、並びにそれらをコードする核酸、及びそのDNAを用いた該ペプチドの遺伝子工学的な製造方法に関する。

【0002】

【従来の技術】 フィブロネクチン(以下、FNと表示する)は、血漿や細胞外マトリックスに存在する糖タンパ

(2)

特許2729712

3

ク質で、多彩な機能を持つことが知られている〔アニュアルレビュー オブ バイオケミストリー(Annual Review of Biochemistry)、第57巻、第375～413頁(1988)〕。天然のFNを創傷治癒、点眼薬等の医薬品や化粧品に利用する試みがなされているが、血液から採取するために、供給に制限があること、コスト高であること、また、病原性の細菌やウイルス等による汚染の可能性があること等の理由により、実用化されていない。FNにはヘパリンに結合する領域(ヘパリン結合ドメイン)が2ヶ所存在し、1ヶ所はN末端付近にあり、結合にCa²⁺イオンが必要であることが知られている。もう一方の領域はC末端付近にあり、この領域のヘパリンに対する結合活性は、前述の領域よりも強く、しかもCa²⁺イオンに影響されない。最近の研究からFNのヘパリン結合ドメインが、細胞接着ドメインと同様に線維芽細胞、内皮細胞、ある種のガン細胞等の接着、伸展、移動に重要な役割を果たしていることが次第に明らかとなってきた。FNのヘパリン結合ドメインは細胞の表面にあるプロテオグリカンに結合して、細胞と細胞外マトリックスとの相互作用を引き起こすことにより、細胞の接着、伸展、移動等に寄与すると考えられる。したがって、細胞接着ドメイン構造とヘパリン結合ドメイン構造の両構造を持つポリペプチドは、細胞と細胞外マトリックスの両方に結合して創傷部の組織の修復や、恒常性の維持に寄与し、医薬品としての用途が期待できる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明者らは特開平2-311498号公報に記載のヒトFNの細胞接着ドメインと、ヘパリン結合ドメインが、直接又はリンカーペプチドを介して結合した機能性ポリペプチドを創製し、該ポリペプチドがガン転移抑制作用等の生理活性を示すことを既に見出している(特開平3-127742号、特願平1-306145号、同2-165727号各明細書)。ガン転移抑制作用、脈管形成抑制作用等の生理活性は、機能性ポリペプチドの構造、特に該ポリペプチドのヘパリン結合ドメイン由来のポリペプチドの構造により異なることより、更にヘパリン結合ドメイン由来のポリペプチド部の構造の異なる上記機能性ポリペプチドの開発が望まれている。本発明の目的は上記現状にかんがみ、ヘパリン結合ドメイン由来のポリペプチド部の構造の異なる細胞接着活性とガン転移抑制活性を合せもつ機能性ポリペプチド、及び該ポリペプチドを含有するガン転移抑制剤を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明を概説すれば、本発明の第1の発明は機能性ポリペプチドに関し、下記一般式(化1)：

【化1】A-(B)_m-(C)_n。

(式中Aは配列表の配列番号1で表されるポリペプチド、Bは配列表の配列番号2で表されるポリペプチド、

10

20

30

40

50

4

Cは配列表の配列番号3で表されるポリペプチド、m、nはそれぞれ1又は0の数を示す。但しm、nの和は1以上である)で表されることを特徴とする。また本発明の第2の発明はガン転移抑制剤に関し、本発明の第1の発明の機能性ポリペプチドを含有することを特徴とする。本発明の第3の発明は、第1の発明の機能性ポリペプチドをコードする核酸に関する。本発明の第4の発明は、第1の発明の機能性ポリペプチドをコードするDNAを組込んだプラスミドに関する。本発明の第5の発明は、第4の発明のプラスミドを導入した形質転換体に関する。更に本発明の第6の発明は、第1の発明の機能性ポリペプチドの製造方法に関し、第5の発明の形質転換体を培養し、該培養物より第1の発明の機能性ポリペプチドを採取することを特徴とする。

【0005】配列表の配列番号1のアミノ酸番号1～277はヒトFNの細胞接着ドメインのPro¹²³²-Ser¹²³³と同一配列であり、配列表の配列番号2はヒトFNのヘパリン結合ドメインのAsn²²²²-Thr²²²⁰と同一配列であり、配列表の配列番号3は同じくヘパリン結合ドメインのAla¹²²²-Thr¹²²⁰と同一配列である。

【0006】なお、本明細書において、アミノ酸に付与された肩数字は、EMBLデータベース(EMBL DATA BANK)のFNのcDNAを翻訳して得られるアミノ酸に付与されたN末端からのアミノ酸残基数を示す。

【0007】ヒトFNの遺伝子構造については、ジェンボジャーナル(The EMBO Journal)、第4巻、第1755～1759頁(1985)に記載されている。また、その細胞接着ドメイン及びヘパリン結合ドメインをコードするcDNAクローン(pLF5、pLF3、pLF4及びpLF5)についてはバイオケミストリー(Biochemistry)、第25巻、第4936～4941頁(1986)に記載されている。本発明者らは、pLF5から、細胞接着ドメインに対するcDNA断片を取出し、これを発現ベクターに接続して大腸菌に導入することにより、細胞接着活性ポリペプチド及びその製造方法を開発し特許出願した(特開平1-206998号)。本発明で必要とされる細胞接着ドメインのcDNAは、特開平1-206998号公報に記載されている組換え体プラスミドpTF7021を用いることができる。pTF7021はFNのPro¹²³²-Met¹²³¹(279アミノ酸残基)を発現するプラスミドである。pTF7021の翻訳領域のC末端の終止コドンの直前にクローニングサイト、例えばNcoIサイトを導入することにより、細胞接着ドメインのcDNAと他のドメインのcDNAを連結させることができる。特開平2-311498号公報に記載のようにpTF7021にNcoIサイトを導入したプラスミドはpTF7520と命名され、該プラスミド中にPro¹²³²-Ser¹²³³-Metの配列がコードされている。

【0008】ヘパリン結合ドメインについてはトリプシン、サーモライシン、カテプシンD等によって分解され

5

て得られた断片が報告されており、その大きさは、29 kDから38 kDに及んでいる。ドメインの詳細な特定はなされていないが、一般的には約90アミノ酸から成る I II型類似配列を3個（III-12、III-13、III-14）と、それに続く IIIc型配列の一部を含む断片が知られている。

【0009】ヘパリン結合ドメインをコードする cDNA は、pLF2435から取出することができる。pLF2435は、前記 pLF2、pLF3、pLF4及びpLF5から再構築されたプラスミドで、FNのヘパリン結合ドメインをコードする cDNA を含んでいる。pLF2435から必要な cDNA 断片を制限酵素で切出し、5' 側に開始コドンを含む合成 DNA を、また、3' 側には、終止コドンを含む合成 DNA を DNA リガーゼで連結した後、適当な発現ベクターに接続することにより、特開平2-311498号公報に記載の III型類似配列が3個つらなった配列を有するペプチド（H-271）を発現するプラスミド pH101を得ることができる。

【0010】プラスミド pTF7520 及びプラスミド pH101 については特開平2-311498号公報中に更に詳細に記述されている。CHV-179、CHV-90及びCHV-89は、それぞれヘパリン結合ドメインの III型リピートのうち、III-13及びIII-14、III-14、及びIII-13が細胞接着ドメインポリペプチド（Pro²¹¹³-Ser²¹¹³）の C 末端にメチオニン残基を介して結合したポリペプチドである。これらが発現するプラスミドは、例えば次のようにして構築することができる。ヘパリン結合ドメインのポリペプチド（H-271）をコードするプラスミド pH101 の III-13 の N 末端、又は C 末端に対応する領域に N_{co}I サイトを導入し、N_{co}I と B_{am}HI で消化して III-14、又は III-13 及び III-14 をコードする DNA 断片を得る。これを細胞接着ドメインポリペプチドをコードしているプラスミド pTF7520（特開平2-311498号）の N_{co}I-B_{am}HI サイトに接続することにより、CHV-179 及び CHV-90 をそれぞれ発現するプラスミド pCHV179 及び pCHV90 が得られる。次いで、CHV-179 を発現するプラスミドから、部位特異的変異の手法で、III-14 をコードする配列を欠失させることにより、CHV-89 を発現するプラスミド pCHV89 を得ることができる。

【0011】前記プラスミドにおける連結部には、N_{co}I サイトに由来するメチオニン残基がリンカーとして含まれる。リンカーの有無は、本発明の効果を左右するものではないが、必要とあれば部位特異的変異の手法により、容易に除去することができる。また、任意のスペーサーを分子間距離の調節のため挿入することもできる。

【0012】配列表の配列番号4のアミノ酸配列をコードするプラスミド pCHV89、配列表の配列番号5のアミノ酸配列をコードするプラスミド pCHV179、配列表の配列

(3)

特許2729712

6

番号6のアミノ酸配列をコードするプラスミド pCHV90 をそれぞれ例えば、大腸菌に導入し、適当な条件下に培養することにより、目的ペプチドが大腸菌内に蓄積される。発現の確認にはイムノブロッティングが用いられる。組換え大腸菌の全菌体タンパク質を SDS-ポリアクリルアミド電気泳動で分離した後、泳動パターンをニトロセルロース膜に移し取る。FNの細胞接着ドメインを認識するモノクローナル抗体（FN-10、宝酒造）、及びFNのヘパリンドメインを認識するモノクローナル抗体（IST-1又はIST-2、セラ・ラブリ）等を用いて検出されるバンドが目的のポリペプチドである。目的ポリペプチドの精製は、例えば次のように行う。組換え大腸菌をL-ブロス等の培地に培養し、集菌した後、超音波処理により、菌体破砕液を得、これを遠心分離して上清を得る。上清を透析後、DEAEイオン交換体のカラムで分画し、次いで抗体カラム及び/又はヘパリン-アガロース等のアフィニティクロマトを行う。以上の操作により、目的のポリペプチドを精製することができる。

【0013】得られたポリペプチドは、BHKやNRK細胞に対する細胞伸展活性の測定及びヘパリン結合活性の測定に用いられる。細胞伸展活性の測定は、例えばルオスラティ（Ruoslahti）らの方法（メソッズ イン エンザイモロジー（Methods in Enzymology）、第82巻、第803～831頁（1981））に進じて行う。すなわち、試料をコートした後、BSAでブロッキングしたマイクロタイタープレートに、BHK又はNRK細胞の懸濁液を添加し、37℃で約1時間インキュベートした後、未吸着の細胞を洗浄した後、ホルマリン固定して、伸展した細胞の割合を顕微鏡下に測定することにより、細胞伸展の強さを測定することができる。一方、ヘパリン結合活性は、ヘパリンを結合した担体、例えばAF-ヘパリントヨパール（Toyoparl、京ソー）のカラムに試料を吸着させ、NaClの塩濃度を上昇させて溶出させ、溶出された塩濃度により、ヘパリンへの結合能力を示すことができる。

【0014】以上の測定により、本発明のポリペプチドはBHKやNRK細胞に対して強い細胞伸展活性を示すと共に、CHV-179、CHV-89はそれぞれヘパリンに対しても強い親和性を示すことが証明される。

【0015】本発明のポリペプチドを医薬として使用する場合、必要に応じて医薬用担体と共に常法により製剤化し、経口投与又は非経口投与すればよい。賦形剤あるいは担体としては薬理学的に許容されるものが選ばれ、その種類及び組成は投与経路や投与方法によって異なる。例えば液状担体として水、アルコール類若しくは大豆油、オリーブ油、ミネラル油等の動植物油、又は合成油が用いられる。固体担体としてマルトース、シュクロースなどの糖類、アミノ酸類、ヒドロキシプロピルセルロースなどのセルロース誘導体、ステアリン酸マグネ

7

シウムなどの有機酸塩などが使用される。

【0016】注射剤の場合は溶解液は生理食塩液、各種糖液、グルコース、イノシトール、マンニトール、ラクトースなどの糖類溶液、エチレングリコール、ポリエチレングリコールなどのグリコール類が望ましい。またイノシトール、マンニトール、ラクトース、シュクロース等の糖類、フェニルアラニン等のアミノ酸等の賦形剤と共に凍結乾燥剤とし、それを投与時に注射用の適当な溶剤、例えば滅菌水、生理食塩液、ブドウ糖液、電解質溶液、アミノ酸溶液等静脈投与用液体に溶解させて投与することもできる。製剤中における本発明のポリペプチドの含有量は製剤により異なるが、通常0.1～10重量%好ましくは1～98重量%である。例えば注射液の場合には、通常0.1～30重量%、好ましくは1～10重量%の有効成分を含むようにすることが望ましい。経口投与する場合には前記固体担体若しくは液状担体と共に、錠剤、カプセル剤、粉剤、顆粒剤、液剤、ドライシロップ剤等の形態で用いられる。カプセル、顆粒、粉剤は一般に5～100重量%、好ましくは25～98重量%の有効成分を含む。

【0017】投与量は、患者の年齢、体重、症状、治療目的等により決定されるが治療量は一般に、非経口投与で1～100mg/kg/日、経口投与で5～500mg/kg/日である。

【0018】本発明のポリペプチドはB16メラノーマを用いる転移のモデル系にて有意な転移防止効果を示すもので、胃癌、肺癌、大腸癌、乳癌、前立腺癌、子宮頸癌、腎癌などガン細胞に対して良好に転移を防止せしめてなる有用なものである。

【0019】以上詳細に説明した様に、遺伝子工学的手法により、細胞接着活性とガン転移抑制剤活性を併せ持ち、新規な機能性ポリペプチドを効率よく提供することができる。該ポリペプチドは抗転移抑制剤としての用途のほか、脈管形成抑制剤、創傷治癒剤、生長促進剤等の医薬品として、また、化粧品、培養基材等として有用である。

【0020】

【実施例】以下、本発明を実施例により更に具体的に説明するが、本発明はこれら実施例に限定されない。

【0021】実施例1

ヘパリン結合ドメインの一部と細胞接着ドメインポリペプチドとの融合タンパク質の構築

なお、図1は融合タンパク質を発現するプラスミドの構築工程を示す図である。Escherichia coli HB 101/pHD101 (FERM BP-2264) より調製したヘパリン結合ドメインをコードするプラスミドpHD101 (特開平2-311498号) を大腸菌BW313に導入し、ヘルパーファージM13K67を感染させてdIを含む一本鎖DNAを調製した。これをテンプレートとし、NcoI認識配列を含む配列表の配列番号6で表す合成DNAをブ

(4)

特許2729712

8

ライマーとして、T4 DNAポリメラーゼを作用させ、相補鎖合成を行った。なお、プライマーは、ポリヌクレオチドキナーゼにより、あらかじめ5'末端をリン酸化した。得られた2重鎖DNAを大腸菌DNAリガーゼで環状化し、宿主菌の大腸菌B/H71-18mut5株に導入して、複製させた。得られた形質転換体からプラスミドを抽出しNcoIで切断してゲル電気泳動で約0.27 kbのバンドを与えるプラスミドを選択した。このようにして、ヘパリン結合ドメインのIII-13のN末端(Asn¹⁷³)と、III-12のC末端(Glu¹⁷²)をコードする配列の間にNcoIサイトを導入したプラスミドを得た。なお、この変異導入には市販の変異導入キット(ミュータンK、宝酒造)を用いた。このプラスミドを、NcoIとBamHIで消化してゲル電気泳動を行い、約0.54 kbのバンドをゲルから抽出した。一方、Escherichia coli JM 109/pTF 7021 (FERM BP-1941) より前述の組換え体プラスミドpTF 7021を調製し、次いで該プラスミドにNcoIサイトを導入した。NcoIサイトの導入は特開平2-311498号公報に記載のように、配列表の配列番号7で表すオリゴヌクレオチドを合成し、前出ミュータンKを用いて行い、プラスミドpTF 7520を得た。前記0.54 kbのDNA断片をNcoIとBamHIで消化したpTF 7520とT4 DNAリガーゼで連結した後、大腸菌HB101に導入した。得られた形質転換体から、プラスミドを抽出し、NcoIとBamHIで消化したときに、0.54 kbのバンドを与えるプラスミドを選択した。このプラスミドをpCH179と命名した。pCH179は、H-271のIII-12を欠失したヘパリン結合ドメインポリペプチドと細胞接着ドメインポリペプチド(Pro¹⁷⁹-Ser¹⁷³)がメチオニン残基を介して結合した融合タンパク質を発現するプラスミドであることをDNAの塩基配列分析によって確認した。pCH179を導入した大腸菌HB101をEscherichia coli HB101/pCH179と命名、表示して工業技術院微生物工業技術研究所に寄託した(微生物菌第12183号(FERM P-12183))。

【0022】同様に、NcoIサイトを含む配列表の配列番号8で表す変異導入プライマーを用いて、pHD101に変異導入を行い、III-13のC末端(Thr¹⁷⁰)とIII-14のN末端(Ala¹⁷¹)をコードする配列の間にNcoIサイトを導入したプラスミドを得た。これをNcoIとBamHIで消化して約0.27 kbのバンドを切り出し、pTF7520のNcoI-BamHIサイトに接続して、大腸菌HB101に導入した。得られた形質転換体から、プラスミドを抽出し、NcoIとBamHIで消化したとき、0.27 kbのバンドを与えるプラスミドを選択し、このプラスミドをpCH90と命名した。pCH90は、H-271のIII-12とIII-13を欠失したヘパリン結合ドメインポリペプチドを細胞接着ドメインポリペプチドがメチオニン残基を介して結合した融合タンパク質

50

9

を発現するプラスミドであることをDNAの塩基配列分析により確認した。pCHV 90を導入した大腸菌HB101を*Escherichia coli* HB101/pCHV 90と命名した。

【0023】次いで、pCHV179から、III-14をコードする領域を欠失するために欠失導入プライマーとしてIII-13のC末端をコードする配列に相補的な配列と、ストップコドン以下の配列に相補的な配列とが直接結合した配列表の配列番号9で表す30塩基のオリゴヌクレオチドを合成した。これをプライマーとして前記の方法で相補鎖を合成し、DNAリガーゼで閉環した後、大腸菌BMH71-18mutSを形質転換し、得られたプラスミドをNcoIとBamHIで消化して、0.27 kbの断片を生成するものを目的の変異体として選択した。最終的には、塩基配列分析により、変異を確認した。このようにして得られたプラスミドはH-271のIII-12とI

【0024】実施例2

CHV-89、CHV-90、及びCHV-179の大腸菌による生産と精製

pCHV89を導入した*Escherichia coli* HB101/pCHV89 (FERM P-12182) を50 µg/mlのアンピシリンを含む5mlのL-プロス培地に接種し、37℃、1夜振とう培養した。これを500mlの同培地に接種して振とう培養し、660nmの吸光度が0.3のときに、2mlのIPTGを添加して、更に20時間培養した。次に遠心分離により集菌し、1mM EDTA、5mMメルカプトエタノール、3 µM p-アミジノフェニルメタンスルホンナトリウムを含む20mMトリス塩酸バッファー (pH 8.0) に懸濁した。これを超音波処理した後、遠心分離を行って2.5mlの上清を得た。上清をDEAE-セパール 650M (15ml) をカラムに吸着させ、カラムを20mMトリス塩酸バッファー (pH 8.0) で洗浄後、バッファー中のNaCl濃度の上昇により吸着物を分画した。イムノブロッティングにより検出された目的画分を集め、20mMトリス塩酸バッファー (pH 8.0) で平衡化した抗体カラム (FN-10) を結合させたセファロース4B、10ml) に吸着させ、次に0.1M NaClを含む同バッファー、20ml酢酸アンモニウム順に洗浄した後、40ml酢酸で目的画分を溶出した。その中でSDS-PAGEで単一のバンドを与える画分を集めて、脱塩、凍結乾燥した。このようにして500mlの培養菌体から約5mgのCHV-89

(5)

特許2729712

10

を得た。このCHV-89の一部をプロテインシーケンサー (477A/120A、アプライドバイオシステムズ社) で分析して、N末端配列を確認した。また、カルボキシペプチダーゼP消化法により、C末端アミノ酸を確認した。

【0025】同様の方法により、pCHV179を導入した*Escherichia coli* HB101/pCHV179 (FERM P-12183) を培養し、500mlの培養菌体から、約5mgのCHV-179を得た。また、pCHV90を導入した*Escherichia coli* HB101/pCHV90の500ml培養液から約4mgのCHV-90を得た。CHV-179、CHV-90のN末端アミノ酸、C末端アミノ酸も、上記と同様の方法でそれぞれ確認した。

【0026】実施例3

生物活性の測定

前記実施例2で得られた各ポリペプチドを用いて細胞接着活性、ヘパリン結合活性及びヘパリン結合ドメインに対するモノクローナル抗体との反応性を測定した。細胞接着活性は、ルオスラティチの方法 [メソッズ イン エンザイモロジー、第82巻、該803~831頁 (1981)] に準じて測定した。試料を蒸留水、PBS (リン酸緩衝生理食塩水) 等に溶かし、96穴マイクロプレート上で段階的に希釈した。4℃、2時間インキュベートして、試料をプレート上に吸着させた (50 µl/ウェル)。3% BSA (牛血清アルブミン) を含むPBS溶液を100 µl/ウェルに加え、37℃、1時間インキュベートしてプレートをブロックした。PBSでプレートを洗浄後、あらかじめダルベッコ (Dulbecco's) イーグル最小栄養培地 (DMEM) に5×10⁵ 細胞/mlとなるように懸濁させたベビーハムスター腎細胞 (BHK-21) を100 µl/ウェル分注し、37℃、1時間インキュベートした。なお使用したBHK-21細胞は、凍結保存した株を継代培養後、トリプシン処理 (37℃、5分) したものをを用いた。PBSでプレートを洗浄後、3%ホルマリン溶液で細胞をプレート上に固定した。顕微鏡下でBHK-21細胞の伸展を観察し、伸展細胞数が、n-FNの高濃度における伸展細胞数の50%となる試料の濃度 (ED₅₀) を求め細胞接着活性の指標とした。

【0027】ヘパリン結合活性の測定は以下のようにした。20mMリン酸バッファー (pH 7.0) で平衡化したAFヘパリン-トヨパール650Mのカラム (1.5 ml) に試料を乗せ、バッファー中のNaCl濃度を段階的に上昇させ、溶出される塩濃度によりヘパリンへの結合力を表した。

【0028】ヘパリン結合ドメインに対するモノクローナル抗体との反応性の測定は、試料1~2 µgをSDS-PAGEで分離し、これをセミドライブロッター (ザルトリウス社) を用いて、ニトロセルロースメンブランにブロッティングした。メンブランをブロッキング液

(5)

特許2729712

11

12

（1% BSAを含むPBS）で処理した後、FNのヘパリン結合ドメインを認識するモノクローナル抗体（iST-1及び-2、セラ・ラブ社）を含むブロッキング液と約1時間インキュベートし、5.0mM NaCl及び0.05% NP-40を含む1.0mMトリス・HClバッファ（pH 7.5）でメンブランを洗浄、更にNP-40を含まない上記バッファでメンブランを洗浄した。次いで、パーオキシダーゼ標識2次抗体（アマシャム社）を含むブロッキング液と約1時間インキュベート*

※し、同様にメンブランを洗浄した。4-クロロ-1-ナフトール及びH₂O₂を含む5.0mM NaCl-トリス・HCl（pH 7.5）溶液にメンブランを浸して、メンブランにブロッティングされたバンドを発色させた。

【0029】以上のようにして得られた測定結果を表1に示す。なお、特開平2-311498号公報記載のC₂₇₇-Met-H₂₇₇を対照とし用いた。

【0030】

【表1】

表 1

試 料	細胞接着活性 (ED ₅₀ , mM)	ヘパリン結合活性 (溶出塩濃度, mM)	抗体との反応性	
			IST-1	IST-2
C ₂₇₇ -Met-H ₂₇₇	176	300	有	有
CHV-179	176	300	有	有
CHV-90	176	150	無	無
CHV-89	176	300	有	有

【0031】実施例4

次に本発明のポリペプチドの生理活性を示す。

（1）ガン転移抑制作用

C57BL/6 マウス（1群5匹）にB16-BL5 メラノーマ細胞3×10⁴個と本発明のポリペプチド1000μgを静脈内に注入する（細胞とポリペプチドをPBS中で混合し、その0.05mlを静注する）。対照としてメラノ※

※ーマ細胞のみを静注し、対照群とする。メラノーマ細胞移植後14日目に肺を摘出して、肺表面における転移結節数を実体顕微鏡を用いて測定する。その結果を表2に示す。

【0032】

【表2】

表 2

	投与量 μg/マウス	肺への転移数 平均±SD
対 照	-	45±7
CHV-89	1000	12±9
CHV-90	1000	11±5
CHV-179	1000	4±3

【0033】以上のように、本発明のポリペプチド投与群で、メラノーマの肺転移が抑制されている。

【0034】（2）急性毒性試験

C57BL/6 マウスにCHV-89、CHV-90、CHV-179をそれぞれ静脈内投与した。100mg/kgにおいて毒性は認められなかった。

【0035】実施例5

次に、本発明のポリペプチドの製剤例を示す。なお各例において、部は重量部を意味する。

【0036】製剤例1

CHV-89 30部に対しPBSを加え、全量を2000部としてこれを溶解後、ミリポアフィルターGSタイプを用いて除菌ろ過する。このろ液2gを10mlの

バイアル瓶により凍結乾燥し、1バイアルに該ポリペプチド30mgを含む凍結乾燥注射剤を得た。

【0037】製剤例2

CHV-90 30部に対しPBSを加え、全量を2000部としてこれを溶解後、ミリポアフィルターGSタイプを用いて除菌ろ過する。このろ液2gを10mlのバイアル瓶により凍結乾燥し、1バイアルに該ポリペプチド30mgを含む凍結乾燥注射剤を得た。

【0038】製剤例3

CHV-179 30部に対しPBSを加え、全量を2000部としてこれを溶解後、ミリポアフィルターGSタイプを用いて除菌ろ過する。このろ液2gを10mlのバイアル瓶により凍結乾燥し、1バイアルに該ポリペ

(7)

特許2729712

13

プチド30mgを含む凍結乾燥注射剤を得た。

【0039】製剤例4

CHV-89 50部、乳糖600部、結晶セルロース330部及びヒドロキシプロピルセルロース20部をよく混和し、ロール型圧縮機（ローラーコンパクター）を用いて圧縮し、破砕して16～60メッシュの間に入るように篩過し、顆粒とした。

【0040】製剤例5

CHV-90 50部、乳糖600部、結晶セルロース330部及びヒドロキシプロピルセルロース20部をよく混和し、ロール型圧縮機（ローラーコンパクター）を用いて圧縮し、破砕して16～60メッシュの間に入るように篩過し、顆粒とした。

【0041】製剤例6

CHV-179 50部、乳糖600部、結晶セルロー

14

ス330部及びヒドロキシプロピルセルロース20部をよく混和し、ロール型圧縮機（ローラーコンパクター）を用いて圧縮し、破砕して16～60メッシュの間に入るように篩過し、顆粒とした。

【0042】

【発明の効果】本発明によりFNのヘパリン結合ドメイン由来のポリペプチド部の構造が異なり、細胞接着活性とガン転移抑制活性の両活性を合せ持つ新規低分子ポリペプチド、並びにそれらをコードする核酸、及びそのDNAを用いる該ポリペプチドの遺伝子工学的な製造方法が提供される。このポリペプチドは遺伝子工学的に大量に供給可能であり、創傷治癒等種々の分野で有用な新規タンパク質である。

【配列表】

10

(8)

特許2729712

15

16

配列番号: 1

配列の長さ: 278

配列の型: アミノ酸

鎖の数: 1本鎖

トポロジー: 直鎖状

配列の種類: ペプチド

配列:

```

Pro Thr Asp Leu Arg Phe Thr Asn Ile Gly Pro Asp Thr Met Arg
  1           5           10           15
Val Thr Trp Ala Pro Pro Pro Ser Ile Asp Leu Thr Asn Phe Leu
          20           25           30
Val Arg Tyr Ser Pro Val Lys Asn Glu Glu Asp Val Ala Glu Leu
          35           40           45
Ser Ile Ser Pro Ser Asp Asn Ala Val Val Leu Thr Asn Leu Leu
          50           55           60
Pro Gly Thr Glu Tyr Val Val Ser Val Ser Ser Val Tyr Glu Glu
          65           70           75
His Glu Ser Thr Pro Leu Arg Gly Arg Glu Lys Thr Gly Leu Asp
          80           85           90
Ser Pro Thr Gly Ile Asp Phe Ser Asp Ile Thr Ala Asn Ser Phe
          95          100          105
Thr Val His Trp Ile Ala Pro Arg Ala Thr Ile Thr Gly Tyr Arg
          110          115          120
Ile Arg His His Pro Glu His Phe Ser Gly Arg Pro Arg Glu Asp
          125          130          135
Arg Val Pro His Ser Arg Asn Ser Ile Thr Leu Thr Asn Leu Thr
          140          145          150
Pro Gly Thr Glu Tyr Val Val Ser Ile Val Ala Leu Asn Gly Arg

```

(9)

特許2729712

17

18

155	160	165
Glu Glu Ser Pro Leu Leu Ile Gly Gln Gln Ser Thr Val Ser Asp		
170	175	180
Val Pro Arg Asp Leu Glu Val Val Ala Ala Thr Pro Thr Ser Leu		
185	190	195
Leu Ile Ser Trp Asp Ala Pro Ala Val Thr Val Arg Tyr Tyr Arg		
200	205	210
Ile Thr Tyr Gly Glu Thr Gly Gly Asn Ser Pro Val Gln Glu Phe		
215	220	225
Thr Val Pro Gly Ser Lys Ser Thr Ala Thr Ile Ser Gly Leu Lys		
230	235	240
Pro Gly Val Asp Tyr Thr Ile Thr Val Tyr Ala Val Thr Gly Arg		
245	250	255
Gly Asp Ser Pro Ala Ser Ser Lys Pro Ile Ser Ile Asn Tyr Arg		
260	265	270
Thr Glu Ile Asp Lys Pro Ser Met		
275		

配列番号: 2

配列の長さ: 80

配列の型: アミノ酸

鎖の数: 1本鎖

トポロジー: 直線状

配列の種類: ペプチド

フラグメント型: 中間部フラグメント (ヒトフィブロネクチン)

配列:

Asa Val Ser Pro Pro Arg Arg Ala Arg Val Thr Asp Ala Thr Glu
1 5 10 15

Thr Thr Ile Thr Ile Ser Trp Arg Thr Lys Thr Glu Thr Ile Thr

(10)

特許2729712

19

29

	20	25	30
Gly Phe Gln Val Asp Ala Val Pro Ala Asn Gly Gln Thr Pro Ile			
	35	40	45
Gln Arg Thr Ile Lys Pro Asp Val Arg Ser Tyr Thr Ile Thr Gly			
	50	55	60
Leu Gln Pro Gly Thr Asp Tyr Lys Ile Tyr Leu Tyr Thr Leu Asn			
	65	70	75
Asp Asn Ala Arg Ser Ser Pro Val Val Ile Asp Ala Ser Thr			
	80	85	

配列番号: 3

配列の長さ: 90

配列の型: アミノ酸

鎖の数: 1 本鎖

トポロジー: 連続状

配列の種類: ペプチド

フラグメント型: 中間部フラグメント (ヒトフィブロンクチン)

配列:

Ala Ile Asp Ala Pro Ser Asn Leu Arg Phe Leu Ala Thr Thr Pro			
1	5	10	15
Asn Ser Leu Leu Val Ser Trp Gln Pro Pro Arg Ala Arg Ile Thr			
	20	25	30
Gly Tyr Ile Ile Lys Tyr Glu Lys Pro Gly Ser Pro Pro Arg Glu			
	35	40	45
Val Val Pro Arg Pro Arg Pro Gly Val Thr Glu Ala Thr Ile Thr			
	50	55	60
Gly Leu Glu Pro Gly Thr Glu Tyr Thr Ile Tyr Val Ile Ala Leu			
	65	70	75
Lys Asn Asn Gln Lys Ser Glu Pro Leu Ile Gly Arg Lys Lys Thr			

(11)

特許2729712

21

22

配列番号: 4

配列の長さ: 367

配列の型: アミノ酸

鎖の数: 1本鎖

トポロジー: 直鎖状

配列の種類: ペプチド

配列:

Pro Thr Asp Leu Arg Phe Thr Asn Ile Gly Pro Asp Thr Met Arg	80	85	90
1 5 10 15			
Val Thr Trp Ala Pro Pro Pro Ser Ile Asp Leu Thr Asn Phe Leu			
20 25 30			
Val Arg Tyr Ser Pro Val Lys Asn Glu Glu Asp Val Ala Glu Leu			
35 40 45			
Ser Ile Ser Pro Ser Asp Asn Ala Val Val Leu Thr Asn Leu Leu			
50 55 60			
Pro Gly Thr Glu Tyr Val Val Ser Val Ser Ser Val Tyr Glu Glu			
65 70 75			
His Glu Ser Thr Pro Leu Arg Gly Arg Glu Lys Thr Gly Leu Asp			
80 85 90			
Ser Pro Thr Gly Ile Asp Phe Ser Asp Ile Thr Ala Asn Ser Phe			
95 100 105			
Thr Val His Trp Ile Ala Pro Arg Ala Thr Ile Thr Gly Tyr Arg			
110 115 120			
Ile Arg His His Pro Glu His Phe Ser Gly Arg Pro Arg Glu Asp			
125 130 135			
Arg Val Pro His Ser Arg Asn Ser Ile Thr Leu Thr Asn Leu Thr			
140 145 150			
Pro Gly Thr Glu Tyr Val Val Ser Ile Val Ala Leu Asn Gly Arg			

8

(12)

特許2729712

23

24

155	160	165
Glu Glu Ser Pro Leu Leu Ile Gly Gln Gln Ser Thr Val Ser Asp		
170	175	180
Val Pro Arg Asp Leu Glu Val Val Ala Ala Thr Pro Thr Ser Leu		
185	190	195
Leu Ile Ser Trp Asp Ala Pro Ala Val Thr Val Arg Tyr Tyr Arg		
200	205	210
Ile Thr Tyr Gly Glu Thr Gly Gly Asn Ser Pro Val Gln Glu Phe		
215	220	225
Thr Val Pro Gly Ser Lys Ser Thr Ala Thr Ile Ser Gly Leu Lys		
230	235	240
Pro Gly Val Asp Tyr Thr Ile Thr Val Tyr Ala Val Thr Gly Arg		
245	250	255
Gly Asp Ser Pro Ala Ser Ser Lys Pro Ile Ser Ile Asn Tyr Arg		
260	265	270
Thr Glu Ile Asp Lys Pro Ser Met Asn Val Ser Pro Pro Arg Arg		
275	280	285
Ala Arg Val Thr Asp Ala Thr Glu Thr Thr Ile Thr Ile Ser Trp		
290	295	300
Arg Thr Lys Thr Glu Thr Ile Thr Gly Phe Gln Val Asp Ala Val		
305	310	315
Pro Ala Asn Gly Glu Thr Pro Ile Gln Arg Thr Ile Lys Pro Asp		
320	325	330
Val Arg Ser Tyr Thr Ile Thr Gly Leu Gln Pro Gly Thr Asp Tyr		
335	340	345
Lys Ile Tyr Leu Tyr Thr Leu Asn Asp Asn Ala Arg Ser Ser Pro		
350	355	360
Val Val Ile Asp Ala Ser Thr		

(13)

特許2729712

25

26

365

配列番号: 5

配列の長さ: 437

配列の型: アミノ酸

鎖の数: 1本鎖

トポロジー: 直鎖状

配列の種類: ペプチド

配列:

```

Pro Thr Asp Leu Arg Phe Thr Asn Ile Gly Pro Asp Thr Met Arg
  1           5           10           15
Val Thr Trp Ala Pro Pro Pro Ser Ile Asp Leu Thr Asn Phe Leu
          20           25           30
Val Arg Tyr Ser Pro Val Lys Asn Glu Glu Asp Val Ala Glu Leu
          35           40           45
Ser Ile Ser Pro Ser Asp Asn Ala Val Val Leu Thr Asn Leu Leu
          50           55           60
Pro Gly Thr Glu Tyr Val Val Ser Val Ser Ser Val Tyr Glu Glu
          65           70           75
His Glu Ser Thr Pro Leu Arg Gly Arg Glu Lys Thr Gly Leu Asp
          80           85           90
Ser Pro Thr Gly Ile Asp Phe Ser Asp Ile Thr Ala Asn Ser Phe
          95          100          105
Thr Val His Trp Ile Ala Pro Arg Ala Thr Ile Thr Gly Tyr Arg
         110          115          120
Ile Arg His His Pro Glu His Phe Ser Gly Arg Pro Arg Glu Asp
         125          130          135
Arg Val Pro His Ser Arg Asn Ser Ile Thr Leu Thr Asn Leu Thr
         140          145          150
Pro Gly Thr Glu Tyr Val Val Ser Ile Val Ala Leu Asn Gly Arg

```

1 0

(14)

特許2729712

27

28

155	160	165
Gle Glu Ser Pro Leu Leu Ile Gly Gln Gln Ser Thr Val Ser Asp		
170	175	180
Val Pro Arg Asp Leu Glu Val Val Ala Ala Thr Pro Thr Ser Leu		
185	190	195
Leu Ile Ser Trp Asp Ala Pro Ala Val Thr Val Arg Tyr Tyr Arg		
200	205	210
Ile Thr Tyr Gly Glu Thr Gly Gly Asn Ser Pro Val Gln Glu Phe		
215	220	225
Thr Val Pro Gly Ser Lys Ser Thr Ala Thr Ile Ser Gly Leu Lys		
230	235	240
Pro Gly Val Asp Tyr Thr Ile Thr Val Tyr Ala Val Thr Gly Arg		
245	250	255
Gly Asp Ser Pro Ala Ser Ser Lys Pro Ile Ser Ile Asn Tyr Arg		
260	265	270
Thr Glu Ile Asp Lys Pro Ser Met Asn Val Ser Pro Pro Arg Arg		
275	280	285
Ala Arg Val Thr Asp Ala Thr Glu Thr Thr Ile Thr Ile Ser Trp		
290	295	300
Arg Thr Lys Thr Glu Thr Ile Thr Gly Phe Gln Val Asp Ala Val		
305	310	315
Pro Ala Asn Gly Gln Thr Pro Ile Gln Arg Thr Ile Lys Pro Asp		
320	325	330
Val Arg Ser Tyr Thr Ile Thr Gly Leu Gln Pro Gly Thr Asp Tyr		
335	340	345
Lys Ile Tyr Leu Tyr Thr Leu Asn Asp Asn Ala Arg Ser Ser Pro		
350	355	360
Val Val Ile Asp Ala Ser Thr Ala Ile Asp Ala Pro Ser Asn Leu		

11

(15)

特許2729712

29

39

```

          385          370          375
Arg Phe Leu Ala Thr Thr Pro Asn Ser Leu Leu Val Ser Trp Gln
          380          385          390
Pro Pro Arg Ala Arg Ile Thr Gly Tyr Ile Ile Lys Tyr Glu Lys
          395          400          405
Pro Gly Ser Pro Pro Arg Glu Val Val Pro Arg Pro Arg Pro Gly
          410          415          420
Val Thr Glu Ala Thr Ile Thr Gly Leu Glu Pro Gly Thr Glu Tyr
          425          430          435
Thr Ile Tyr Val Ile Ala Leu Lys Asn Asn Glu Lys Ser Glu Pro
          440          445          450
Leu Ile Gly Arg Lys Lys Thr
          455

```

配列番号: 6

配列の長さ: 368

配列の型: アミノ酸

鎖の数: 1本鎖

トポロジー: 直鎖状

配列の種類: ペプチド

配列:

```

Pro Thr Asp Leu Arg Phe Thr Asn Ile Gly Pro Asp Thr Met Arg
  1          5          10          15
Val Thr Trp Ala Pro Pro Pro Ser Ile Asp Leu Thr Asn Phe Leu
          20          25          30
Val Arg Tyr Ser Pro Val Lys Asn Glu Glu Asp Val Ala Glu Leu
          35          40          45
Ser Ile Ser Pro Ser Asp Asn Ala Val Val Leu Thr Asn Ile Leu
          50          55          60
Pro Gly Thr Glu Tyr Val Val Ser Val Ser Ser Val Tyr Glu Gln

```

12

(16)

特許2729712

31

32

65	70	75
His Glu Ser Thr Pro Leu Arg Gly Arg Glu Lys Thr Gly Leu Asp		
80	85	90
Ser Pro Thr Gly Ile Asp Phe Ser Asp Ile Thr Ala Asn Ser Phe		
95	100	105
Thr Val His Trp Ile Ala Pro Arg Ala Thr Ile Thr Gly Tyr Arg		
110	115	120
Ile Arg His His Pro Glu His Phe Ser Gly Arg Pro Arg Glu Asp		
125	130	135
Arg Val Pro His Ser Arg Asn Ser Ile Thr Leu Thr Asn Leu Thr		
140	145	150
Pro Gly Thr Glu Tyr Val Val Ser His Val Ala Leu Asn Gly Arg		
155	160	165
Glu Glu Ser Pro Leu Leu Ile Gly Glu Glu Ser Thr Val Ser Asp		
170	175	180
Val Pro Arg Asp Leu Glu Val Val Ala Ala Thr Pro Thr Ser Leu		
185	190	195
Leu Ile Ser Trp Asp Ala Pro Ala Val Thr Val Arg Tyr Tyr Arg		
200	205	210
Ile Thr Tyr Gly Glu Thr Gly Gly Asn Ser Pro Val Glu Glu Phe		
215	220	225
Thr Val Pro Gly Ser Lys Ser Thr Ala Thr Ile Ser Gly Leu Lys		
230	235	240
Pro Gly Val Asp Tyr Thr Ile Thr Val Tyr Ala Val Thr Gly Arg		
245	250	255
Gly Asp Ser Pro Ala Ser Ser Lys Pro Ile Ser Ile Asn Tyr Arg		
260	265	270
Thr Glu Ile Asp Lys Pro Ser Met Ala Ile Asp Ala Pro Ser Asn		

13

(17)

特許2729712

33

34

```

                275                280                285
Leu Arg Phe Leu Ala Thr Thr Pro Asn Ser Leu Leu Val Ser Trp
                290                295                300
Gln Pro Pro Arg Ala Arg Ile Thr Gly Tyr Ile Ile Lys Tyr Glu
                305                310                315
Lys Pro Gly Ser Pro Pro Arg Glu Val Val Pro Arg Pro Arg Pro
                320                325                330
Gly Val Thr Glu Ala Thr Ile Thr Gly Leu Glu Pro Gly Thr Glu
                335                340                345
Tyr Thr Ile Tyr Val Ile Ala Leu Lys Asn Asn Gln Lys Ser Glu
                350                355                360
Pro Leu Ile Gly Arg Lys Lys Thr
                365

```

配列番号: 7

配列の長さ: 26

配列の型: 核酸

鎖の数: 1 本鎖

トポロジー: 直鎖状

配列の種類: 他の核酸 (合成DNA)

ハイボセチカル配列: NO

アンチセンス: YES

配列の特徴: 1-28 8 primer

配列:

GCTGACATTC GCCATGCTC CAGACT 26

配列番号: 8

配列の長さ: 22

配列の型: 核酸

鎖の数: 1 本鎖

トポロジー: 直鎖状

(18)

特許2729712

35

36

配列の種類：他の核酸（合成DNA）

ハイボセティカル配列：NO

アンチセンス：YES

配列の特徴：1-22 B primer

配列：

CTATTACACC ATGGATGCTT TG 22

配列番号：9

配列の長さ：22

配列の型：核酸

鎖の数：1本鎖

トポロジー：直鎖状

配列の種類：他の核酸（合成DNA）

ハイボセティカル配列：NO

アンチセンス：YES

配列の特徴：1-22 B primer

配列：

ATCAATGCCC ATGGTGGAGG CG 22

配列番号：10

配列の長さ：30

配列の型：核酸

鎖の数：1本鎖

トポロジー：直鎖状

配列の種類：他の核酸（合成DNA）

ハイボセティカル配列：NO

アンチセンス：YES

配列の特徴：1-30 B primer

配列：

AGCCCGATCC TATTAAGTGG AGCCCTCGAT 30

15

【図面の簡単な説明】

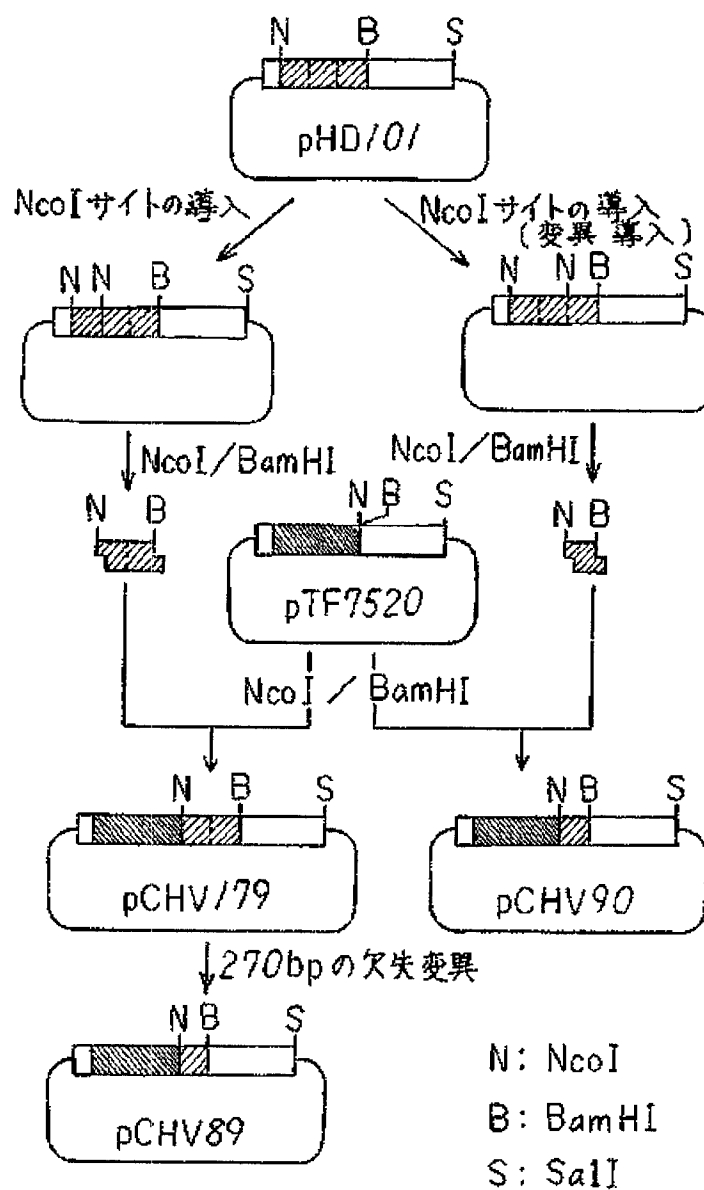
れぞれ構築するための工程図である。

【図1】プラスミドpCHW179、pCHW89、及びpCHW90をそ

(19)

特許2729712

【図1】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁹

C12P 21/02

//C12N 1/21

C12R 1:19

識別記号

序内整理番号

9282-4B

FI

C12N 15/00

技術表示箇所

A

(20)

特許2729712

(C 1 2 P 21/02

C 1 2 R 1:19)

(72)発明者 岩塚 房夫
滋賀県大津市瀬田3丁目4番1号 寶酒
造株式会社中央研究所内

(72)発明者 加藤 郁之進
滋賀県大津市瀬田3丁目4番1号 寶酒
造株式会社中央研究所内